

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	2770901615
法人名	非営利活動法人 きらら
事業所名	グループホーム きらら
訪問調査日	平成 19 年 11 月 13 日
評価確定日	平成 19 年 12 月 12 日
評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2770901615
法人名	非営利活動法人 きらら
事業所名	グループホーム きらら
所在地	高槻市大字原1109番地 (電話) 072-688-0842

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成19年11月13日	評価確定日	平成19年12月12日

## 【情報提供票より】(19年10月22日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	12 人	常勤	5 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 7

### (2) 建物概要

建物構造	2 階建 木造 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000~65,000 円	その他の経費(月額)	30,000	
敷金	有( ) 円	○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(350,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	○有 1年間	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	50 円
	または1日当たり			

### (4) 利用者の概要(10月22日現在)

利用者人数	4 名	男性	名	女性	4 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 80 歳	最低	74 歳	最高	92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	星野クリニック なかじま診療所 松本歯科クリニック 緑ヶ丘病院
---------	---------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは平成15年7月1日に高槻市の北部に設立された木造2階建ての1ユニット6名の木のぬくもりを感じるグループホームである。春は桜、夏には蛍観賞、秋は紅葉と恵まれた自然の織りなす移り変わりと共に存しながら野菜や花作りをしたり併設のデイサービスで自分にあった行事や活動に参加する等地域住民の一員として楽しく暮らしている。ホームは日中、玄関の鍵を開放して地域住民やボランティア、家族が気楽に出入りできる開放型のグループホームで来訪者が多いホームはいつも賑やかで楽しい地域のコミュニケーションの場になっている。理事長は「お互いに敬愛の精神をもち、誰もがいくつになっても自立し地域に開かれた人の輪と和を大切にする社会作りをする」を理念に掲げ職員と一丸となり実践に向けて日々取り組んでいる。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題は服薬の目的や副作用についてと食事状況の記録もれであった。服薬についてはその後内部研修を実施し職員の認識を深めるように取り組まれた。食事状況の記録ではまだ一部未記入の部分があり改善が残されている。前回の評価後、日々のケアの様子が一目でよく解る個別記録様式の改善にも取り組まれて質の向上に努めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>理事長、ホーム長は自己評価と外部評価の内容を実施する意義を理解して職員の意見も聞きながら行っている。職員の更なる質向上を目指してサービス評価の意義や目的を解り易く伝え具体的な活用方法をしっかりと理解できるように全員で取り組むことが求められます。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は市介護保険課の担当者、民生委員、自治会長、老人会長、家族会、ホームの職員の参加で3月と9月に実施された。ホーム側から概要説明や取り組みの内容、行事報告等を説明して参加者からは率直な意見を出してもらった。最初理解の薄かった参加者からは話し合いを通じて理解と協力が得られて今後のホームの質向上へ取り組むのに役立っている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月生活記録や内容多様なホーム便りを送付している。家族の訪れた機会をとらえて行事や写真など見てもらったりして日々の様子を話すように心がけている。家族からの意見や要望は前向きに受け止めて取り入れるようにしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域住民との交流はしっかりした基盤が構築されている。地域のボランティアや一般の老若男女の来訪も多くホームは地域のコミュニケーションの場となっている。入居者の表情は穏やかで明るい。ホーム全体で理想的な地域密着型サービスの運営に積極的に取り組んでいる。</p>

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な環境と地域住民との交流を大切に ひとり一人が敬愛の精神を持ち地域の中で最後までその人らしく暮らす事が出来るような社会作りを目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は良く目に付く玄関と食堂に掲げている。日々の生活の中で共に意識しながら話し合い毎朝 職員と入居者は理念を大きな声で唱和して確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者は共に暮らす地域住民の一員として地域の行事やお祭り等に積極的に参加している。散歩の途中では地元住民の人達と楽しい会話をしている。併設の街かどディサービスの行事にも喜んで参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員の意見を聞き入れながら作成されている。評価記入については時間的な余裕がなかった事も理解出来るが評価項目の具体的な評価が明示されていない箇所がある。外部評価については前回の結果を踏まえて見直しや研修を行い一目でわかる書類様式の改善にも取り組んでいる。	○	職員には評価を活かしていく為に評価のねらいや活用方法を解り易く伝えしっかり理解できるような取り組みが求められます。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は市介護保険課の担当者、民生委員、自治会長 老人会長、家族会、ホーム職員の参加で三月、九月に行われた。ホームの概要説明や取り組みの内容、行事報告等説明し参加者と率直な意見をかわし理解と協力を得られ今後のホーム質向上に取り組むのに役立っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の事業団からいろいろな情報を集めたり行政とNPO団体の協働を目指した会議に定期的に参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族会議や面会に来られた時に入居者の生活ぶり、行事等記した生活記録やホーム便りを見てもらい報告している。また定期的にこれら書類は送付して家族との信頼関係を確保する努力をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームと家族の関係は非常によく家族の訪れた時に意見や要望は聞き入れるように努めている。日曜日など来訪者で溢れるほどになる時もある。職員は家族間のよいパイプ役を努めて家族には感謝される事が多い。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職の時は朝の朝礼で話したりお別れ会をするが入居者はすぐ忘れる。これまでに職員の異動は少なく入居者と職員は馴染みの関係を保っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症についての研修会には積極的に参加している。食をメインに考えており、職員には料理の講習会に参加してもらい、その成果を日々の食事に反映させて、みんなに喜ばれている。また事業所はその時の費用の応援もしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業者との交流によく理解を示し、他業者と交流研修なども行い良い面を取り入れるようにしてサービスの向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にアセスメントや相談に時間をかけてから体験入所をして頂いている。その前に併設のデイサービスで徐々に雰囲気に慣れて頂き安心して納得しながら段階的な支援をしていくように工夫している		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者に人生の先輩としていつも尊敬の念をもって接している。日常生活の中で教えて頂く事が多いと感じている。利用者のさりげない笑顔は支援の励みとなっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は一人ひとりの思いや暮らし方の希望や意向を把握することに努め、必要に応じて家族にも相談しながら取り組んでいる。過去の状況を全職員はしっかり把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は本人を良く知っている家族や関係者と本人本位で話し合いをして気付き、要望などいろんな意見を出し合って本人に一番よい方法で計画作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三ヶ月に一回の見直しをしている。変化があればその都度見直しをしてケアプランの変更をしている。介護計画の記録や業務日誌等丁寧に記録されているが職員が見られた確認のサインや印がないところが多々ある。	○	書類を書かれた担当者は丁寧に記録をまとめているが職員は出勤された時に書類を見られた確認のサインか印をする習慣をつけることが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族が安心して暮せるように本人や家族の要望に応じて外出支援や移送支援、行事等その時々に必要な支援を柔軟に提供している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に際しては家族の要望を聞いて内科医、精神科医に2週間に一回、訪問診療を受けている。必要に応じて訪問看護も受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者や家族が安心してサービスを受けられるように日常の健康管理や急変時の医療処置の対応について入居時に家族と十分話し合い方針を共有している。過去に重度化した入居者を家族と一緒に最後まで看取られた例がある。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者の意思や人格を大切に誇りやプライドを損なわないように言葉の内容や語調などに注意を払っている。個人情報の秘密保持の徹底も図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者がその人らしく暮していけるように本人の希望に沿うような支援に努めている。入居者は家庭的な雰囲気の中で日課に縛られず、ゆったりと本人のペースで安定した生活を過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食卓にはみんなで収穫したお野菜が料理され職員と一緒に楽しく食事されて、みんな美味しく完食されている。食事中は和やかで後片付けや配膳など出来ることは手伝っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的には週2回となっているが毎日入りたい希望があれば時間帯とも柔軟に個別にあった入浴支援を行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者は自立度が高く 併設のディサービスでアート習字やカラオケ、短歌教室に参加したりして地域の住民と交流を楽しまれている。また宛名書きを受け持ったり 農園で出来たお野菜の収穫を楽しまれたりして その人に合った過ごし方をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの周りは山や川、田や畑があり健脚の人は山の方へ行く人もあり入居者の体調にあった散歩をして気晴らしになるような支援をしている。地域の人々の理解と協力もあり入居者は外出を楽しんでいる。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけない暮らしの大切さをよく理解している。入居者の安全性に配慮し地域住民の協力を得ながら日中は玄関の鍵はかけないで支援をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員と入居者は地域の協力を得ながら3ヶ月に一回の定期防災訓練をおこなっている。いざという時に慌てず確実に避難誘導が出来るように取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量や栄養バランスはよく配慮されている。入居者ごとの記録は大体整理されているが所々に未記入の箇所があります。職員全員が摂取量を常に意識しながら支援することが望まれます。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には長椅子を置いてあり入居者が寛げる場を提供している。壁には絵や書、手芸品などが飾られて居心地よく過ごされるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談しながら居室には使い慣れた馴染みの品々が持ち込まれてその人らしい落ち着いた居心地のよい居室作りがされている。		